

# サンコール株式会社

(証券コード：5985)

## ～ 平成30年3月期 決算報告 ～

### ご注意

本日の説明および配布資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。

平成30年6月7日

代表取締役社長 山主千尋

# サンコール株式会社 決算報告

## 1. 決算報告

- ① 平成30年3月期 決算要約
- ② 平成31年3月期 業績見通し

## 2. 中期経営方針

添付：会社概要

# サンコール株式会社 決算報告

## 1. 決算報告

- ① 平成30年3月期 決算要約
- ② 平成31年3月期 業績見通し

## 2. 中期経営方針

添付：会社概要

# 1-① 平成30年3月期 決算要約/連結

(単位：百万円)	平成29年3月期	平成30年3月期		
	実績	実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	37,980	42,225	+4,245	+11.2%
営業利益	2,250	2,415	+165	+7.4%
経常利益	1,734	2,527	+793	+45.7%
当期純利益	1,093	2,125	+1,032	+94.3%

一株当たり利益	34.45円	66.80円	+32.35円	---
平均為替レート 円/USD	108.39円	110.86円	+2.47円	---
円/EURO	118.79円	129.70円	+10.91円	---

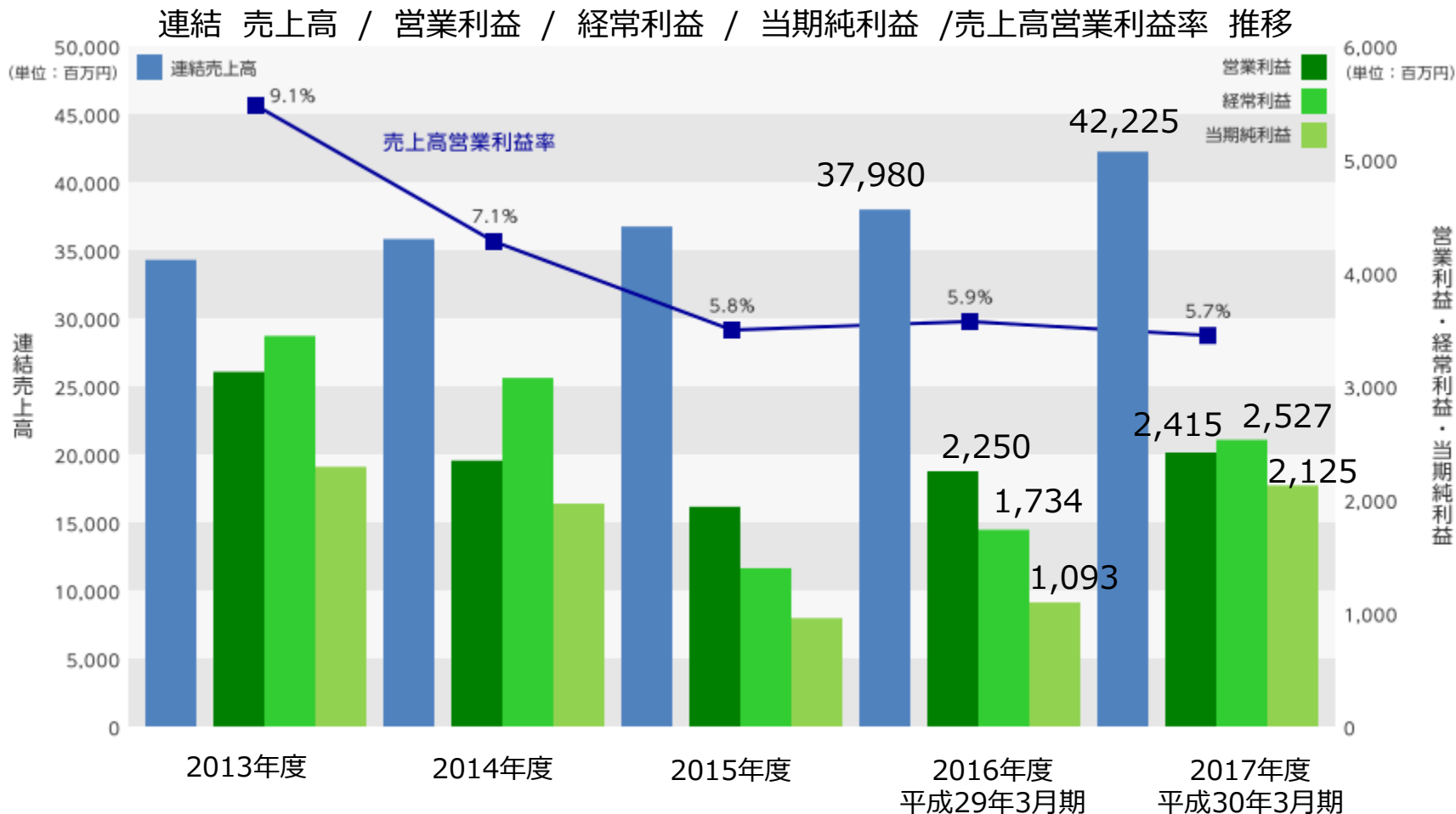
- ・ 売上/営業利益 : 自動車関連販売増、HDD用サスペンション新モデル販売増
- ・ 営業利益 : 自動車関連増収効果、HDD用サスペンション新モデル増費用増加
- ・ 経常利益 : 為替環境の改善
- ・ 当期純利益 : 特別利益（投資有価証券売却益）計上 など

# 1-① 平成30年3月期 決算要約/連結 営業外損益

(単位：百万円)	平成29年3月期	平成30年3月期	
	実績	実績	前年同期比 増減額
受取配当金	1 1 9	1 2 6	+ 7
その他	1 9 8	2 4 3	+ 4 5
<b>営業外収益合計</b>	<b>3 1 7</b>	<b>3 6 9</b>	<b>+ 5 2</b>
持分法投資損失	▲ 1 2 3	▲ 5 0	+ 7 3
為替差損	▲ 6 2 8	0	+ 6 2 8
その他	▲ 8 0	▲ 2 0 6	▲ 1 2 6
<b>営業外費用合計</b>	<b>▲ 8 3 2</b>	<b>▲ 2 5 7</b>	<b>+ 5 7 5</b>
<b>営業外損益合計</b>	<b>▲ 5 1 5</b>	<b>1 1 2</b>	<b>+ 6 2 7</b>

- ・ 持分法投資損益：中国合併企業の収益改善、メキシコ合併企業の持分法適用化
- ・ 為替差損：為替レート改善（前期比、対ドル円安、ペソ高基調）

# 1-① 平成30年3月期 決算要約/連結業績推移



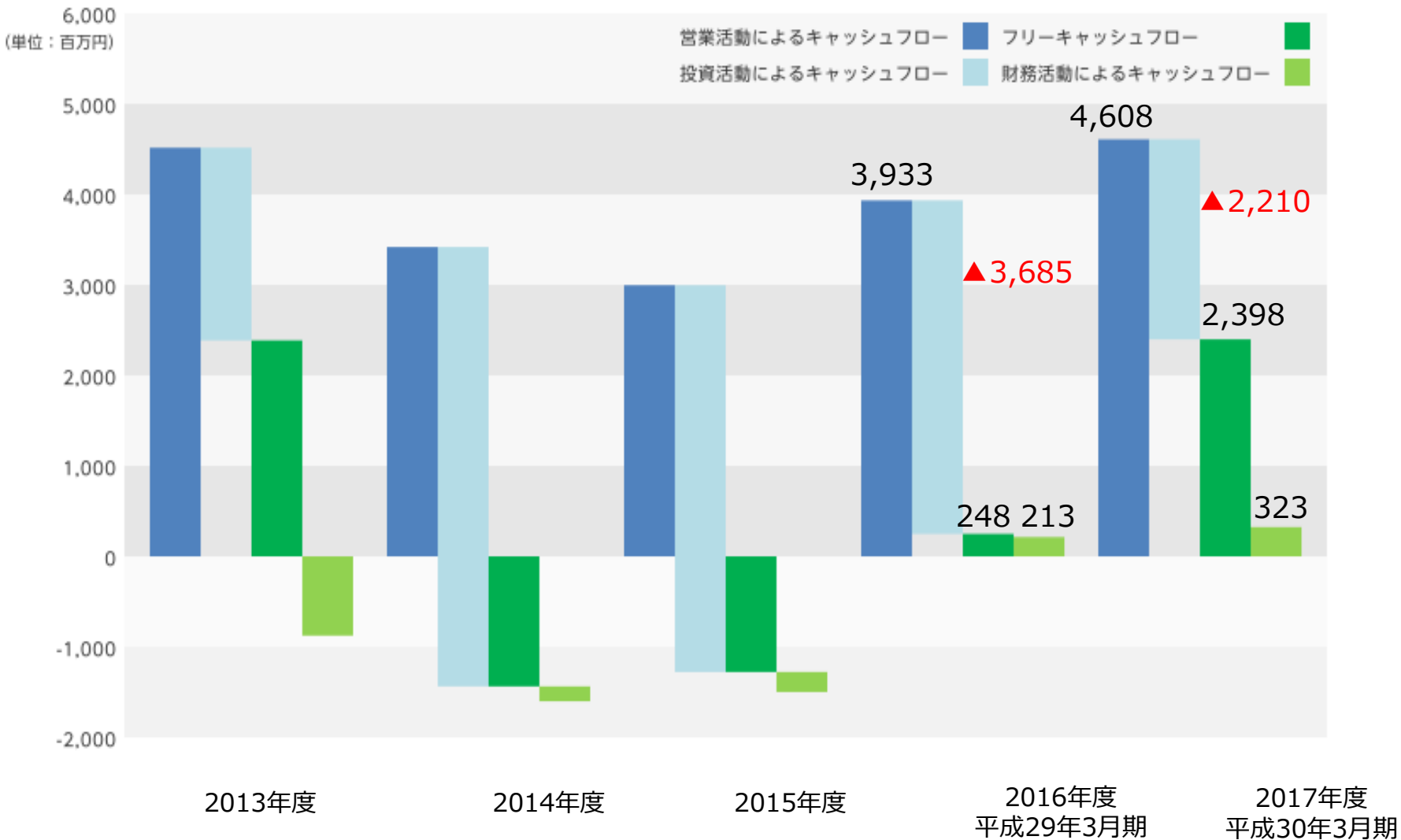
- ・ 売上 : 自動車関連販売増、HDD用サスペンション新モデル販売増により、過去最高売上を達成
- ・ 営業利益 : 自動車関連増収効果、HDD用サスペンション新モデル増費用、北米生産性改善遅れにより、増収効果を吸収

# 1 - ① 平成30年3月期 決算要約/連結 財政状態

(単位:百万円)	平成29年3月末	平成30年3月末	増減
資産合計	45,296	49,478	4,182
現預金	7,865	10,667	2,802
売上債権	8,470	9,618	1,148
棚卸資産	4,956	5,532	576
その他流動資産	1,106	762	△344
固定資産	22,895	22,897	2
負債合計	12,422	14,307	1,885
流動負債	9,158	10,241	1,083
固定負債	3,263	4,065	802
(有利子負債)	1,580	2,617	1,036
純資産合計	32,874	35,171	2,297



# 1-① 平成30年3月期 決算要約/連結 キャッシュフロー状況





# サンコール株式会社 決算報告

## 1. 決算報告

- ① 平成30年3月期 決算要約
- ② 平成31年3月期 業績見通し

## 2. 中期経営方針

添付：会社概要

# 1-② 平成31年3月期 業績見通し/連結

## 【事業環境】

平成30年3月期

平成31年3月期見通し

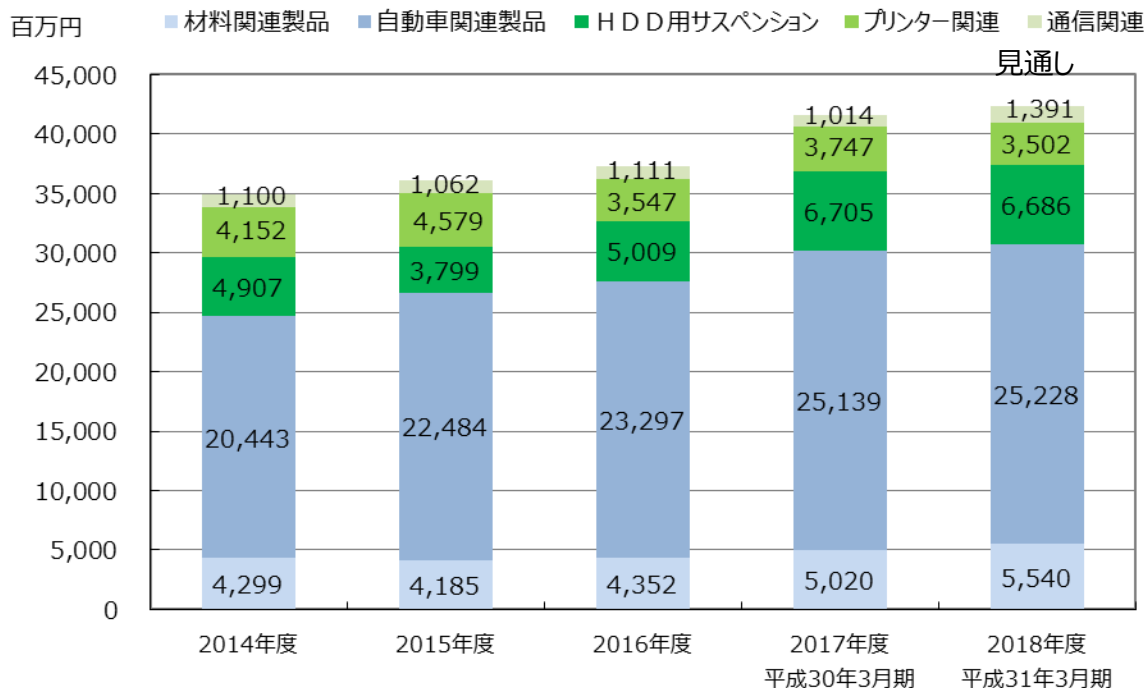
- 為替レート : ドル = 110.86円 → 106.00円  
                   ユーロ = 129.70円 → 130.00円
- 需要動向
  - ・自動車関連事業 : 中国など海外需要が堅調、メキシコ子会社の本格的量産開始
  - ・電子情報通信事業 : 前年度高水準の維持

## 【通期見通し】

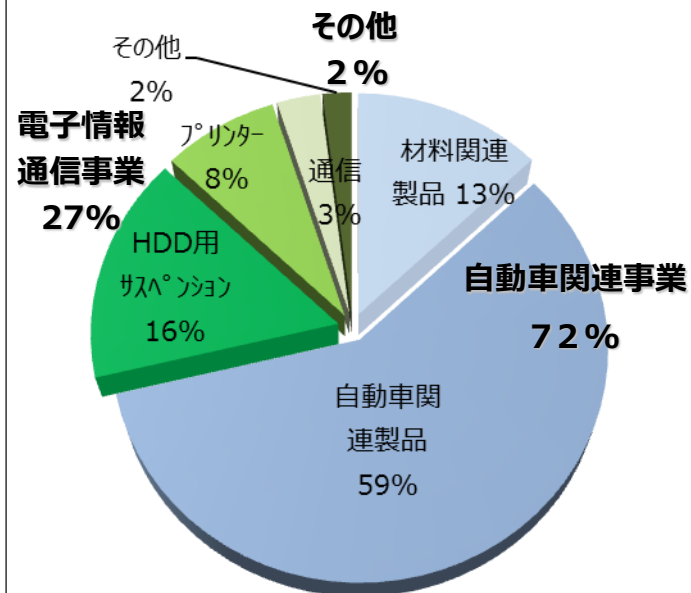
(単位：百万円)	平成30年3月期	平成31年3月期		
	実績	見通し	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	42,225	43,000	+775	+1.8%
営業利益	2,415	2,400	△15	△0.6%
経常利益	2,527	2,380	△147	△5.8%
当期純利益	2,125	1,800	△325	△15.3%

# 1-② 平成31年3月期 業績見通し 製品別連結売上高推移・比率

### 製品別売上推移



### 製品別売上比率



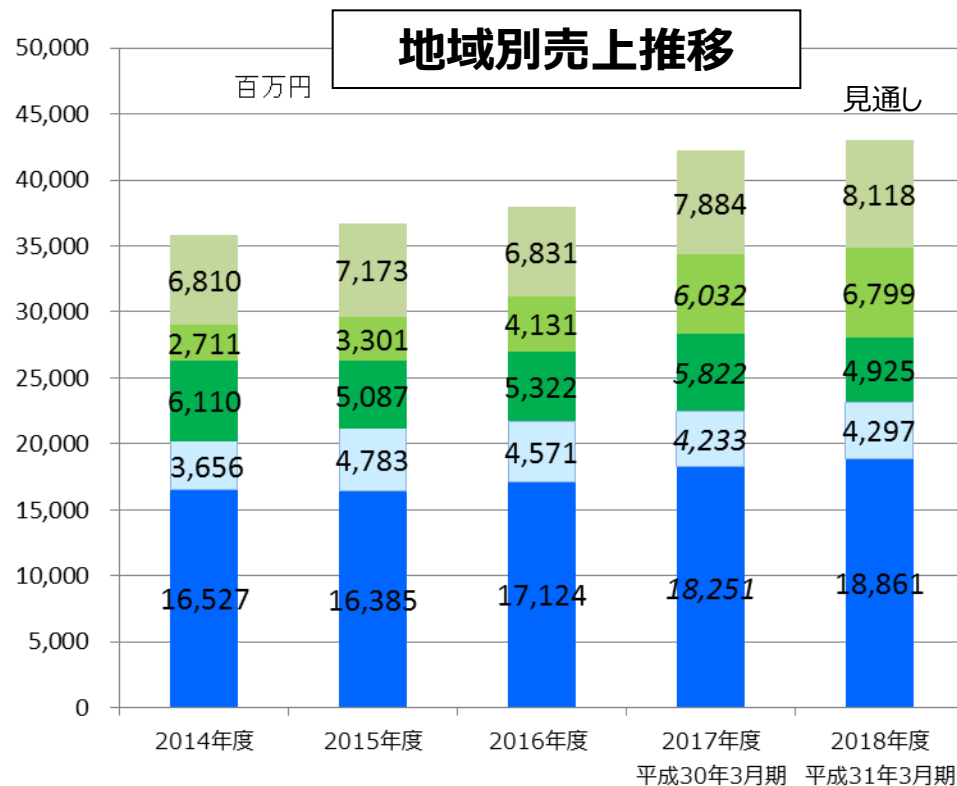
## － H30/3期

- 自動車関連事業 : 3拠点材料生産増、エンジン・ミッション用部品の伸長
- 電子情報通信事業 : HDD用サスペンション新モデル需要増、プリンター関連販売低迷なるも年後半に需要回復基調

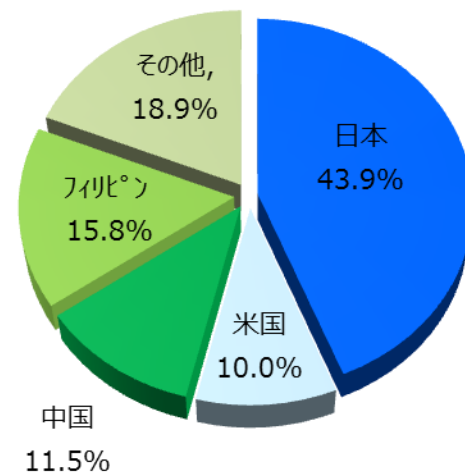
## － H31/3期 見通し

- 自動車関連事業 : 国内、東南アジアで自動車材料・部品需要堅調
- 電子情報通信事業 : 需要は前年比増を見込むが為替影響から前年比微増

# 1-② 平成31年3月期 業績見通し 地域別連結売上高推移・比率



### 地域別売上比率



\* 売上高は顧客の所在地に基づく分類

## ー H30/3期

- ・ 日本 : 自動車ミッション用ばね製品の販売増
- ・ 中国/アジア : 弁ばね材料、自動車部品、HDD用サスペンション売上増

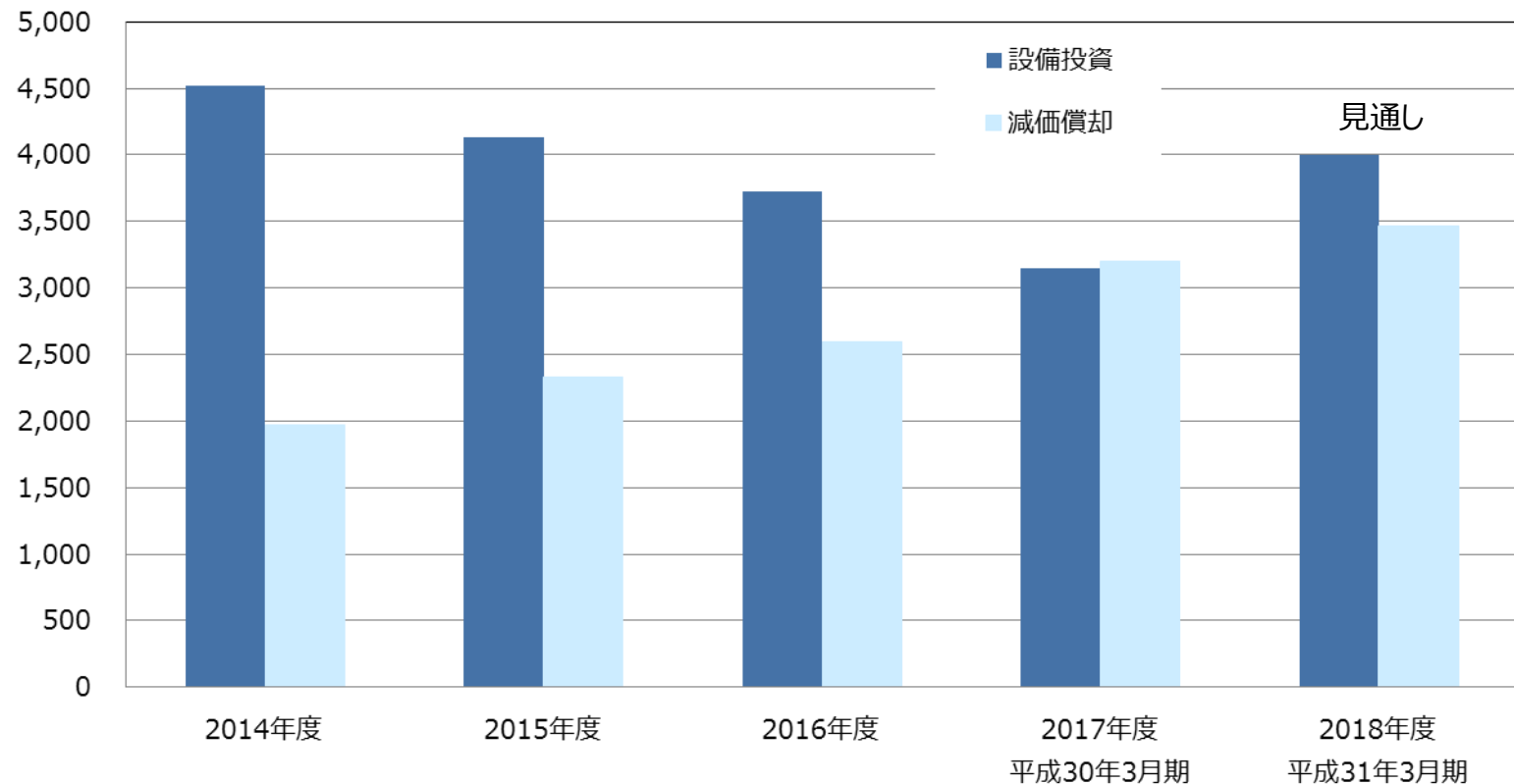
## ー H31/3期 見通し

- ・ 日本 : 自動車材料関連の需要予測堅調
- ・ 中国 : 自動車部品需要予測堅調、電子情報通信部品の供給先変更による影響 (-)
- ・ フィリピン : 電子情報通信部品の供給先変更による影響 (+)

# 1-② 平成31年3月期 業績見通し

## 設備投資・減価償却推移

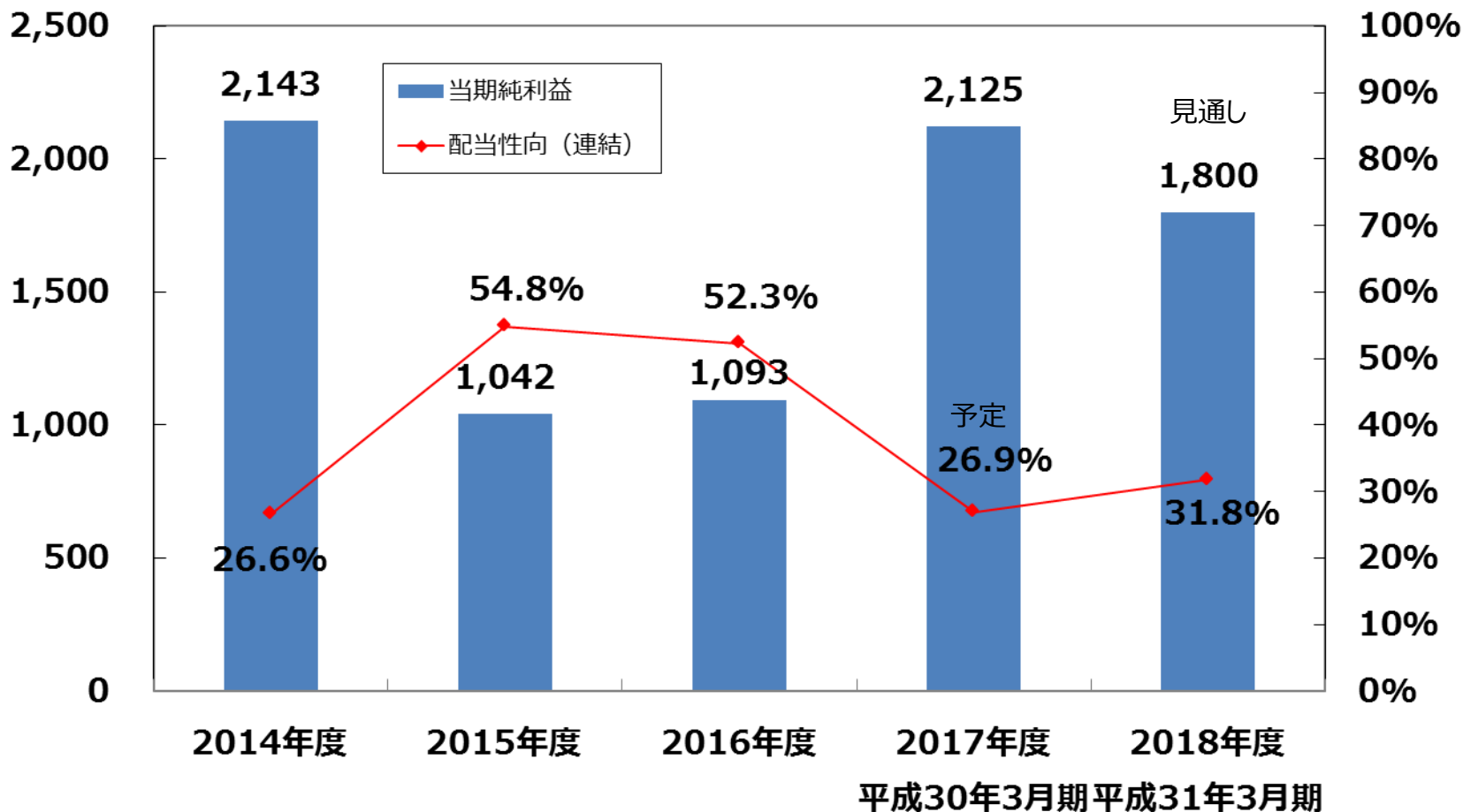
単位：百万円



百万円	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 平成30年3月期	2018年度 平成31年3月期 見通し
設備投資	4,519	4,133	3,727	3,144	4,000
減価償却	1,969	2,326	2,592	3,201	3,462

# 1-② 平成31年3月期 配当方針

単位：百万円



配当政策： 現行配当額1株18円の維持を下限目標

- 2018年度： 中間配当 8円 / 期末配当 10円  
 (予定) 合計 18円 / 配当性向 31.9%

# サンコール株式会社 決算報告

## 1. 決算報告

- ① 平成30年3月期 決算要約
- ② 平成31年3月期 業績見通し

## 2. 中期経営方針

添付：会社概要

## 2. 中期経営方針

### － 中期計画 ローリング －

#### 中期経営方針：

『企業価値向上』を目指し、コア事業の経営資源の効率化と成長分野への投資による事業の拡大発展を進める。

#### － 事業別方針と進捗状況

- 1) 自動車関連事業：既存事業の基盤強化と拡大
  - － 精密機能材料：日本、中国、メキシコの量産体制確立により、グローバル最適生産・供給を推進。
  - － 精密機能部品：アジア地域、安全部品の拡販推進。
  
- 2) 電子情報通信事業：経営資源の集中と開発力、営業力の強化
  - － HDD用サスペンション：生産ラインの稼働率向上による拡販。
  - － プリンター部品/光通信用部品：開発、営業力の強化取組。
  
- 3) 新規事業：自動車電動化部品の開発、新素材の研究開発、医療・環境事業への参入
  - － 自動車電動化部品の量産開始、装着型リハビリロボット事業化推進。



# 2. 中期経営方針

## — 自動車関連事業 —

### 基盤強化と拡大

#### 事業環境

— 自動車市場（グローバル）の拡大  
 2017年乗用車販売台数： 97百万台  
 2025年 “ ” 予測：114百万台

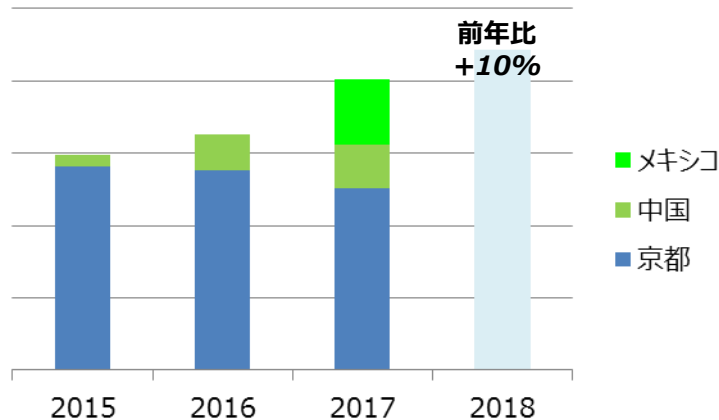
#### 一次世代自動車の普及予測

2025年予想 114百万台  
 ・ 内燃機関 103百万台 90%  
 ・ EV/PHEV/HV 11百万台 10%  
 \* HVに48Vは含まず

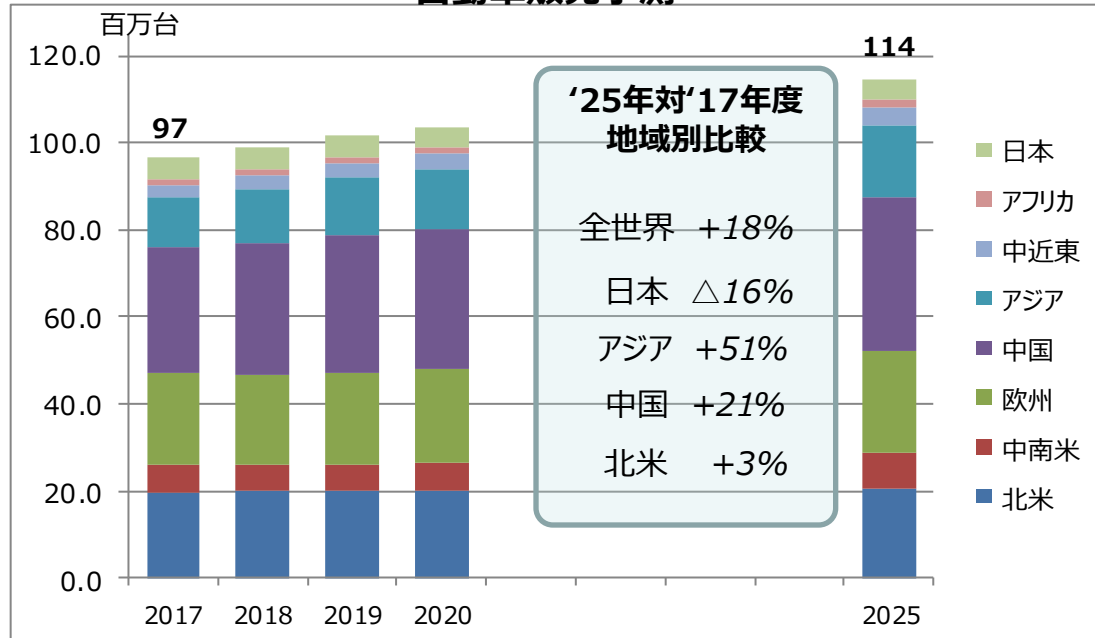
#### グローバル需要増に対応

- エンジン/ミッション 材料・部品
- 安全部品 シートベルト用ゼンマイ

#### 1) エンジン弁ばね用線材生産量

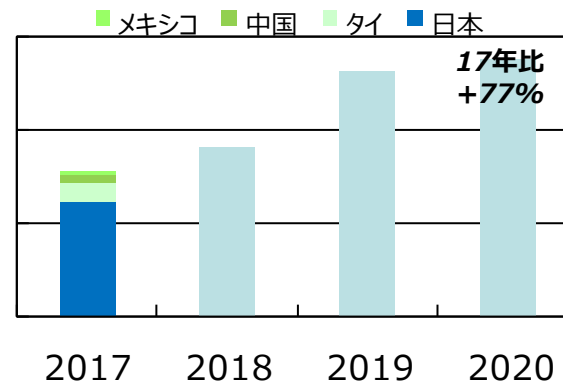


#### 自動車販売予測



出所：各種公開資料からサンコール作成

#### 2) 安全部品/シートベルト用ゼンマイ 生産能力拡大 (計画)



## 2. 中期経営方針

### — 電子情報通信事業 —

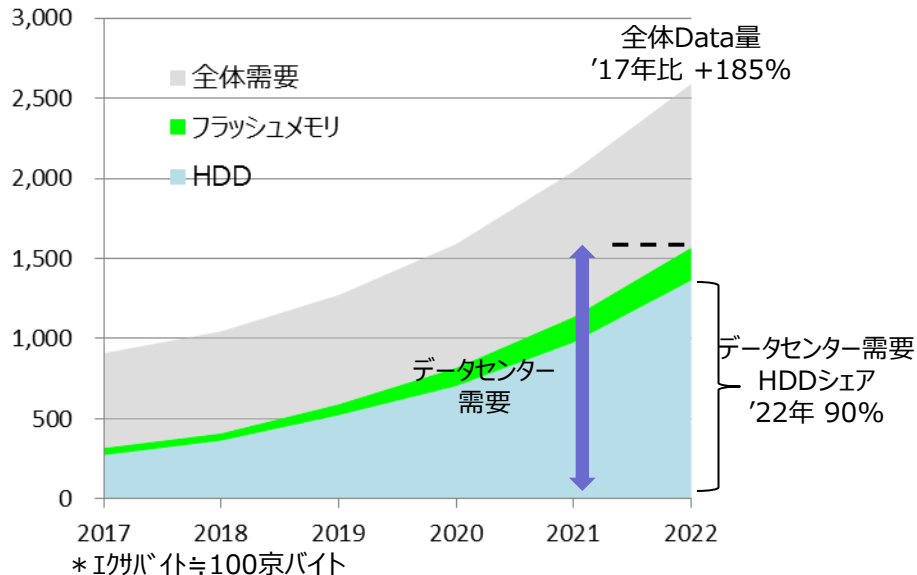
#### 経営資源の集中と開発力、営業力の強化

##### 事業環境

- BIG Data利用による情報量の爆発的拡大
- HDD需要は、フラッシュメモリーとの用途住み分けと技術革新による記憶容量拡大により増加

##### — 記憶装置別記憶容量 将来予測

単位：EB (1000億バイト)



##### 製品による需要トレンド

- 家電、携帯機器、PC、IoT機器  
⇒ フラッシュメモリー、SSD搭載
- 企業、データセンター サーバ  
⇒ “ニアラインストレージ”にHDD搭載

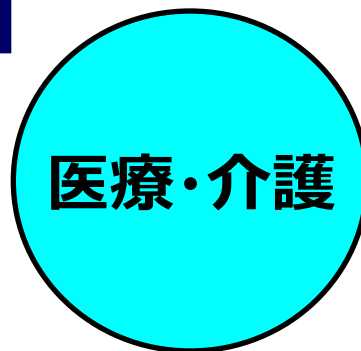
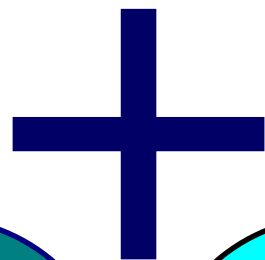
2022年時点でデータセンター記憶容量の約90%がHDD利用と予測  
容量成長率：'17年比 約+400% (推測)

参照情報：WD社公開情報からサンコール作成

**需要拡大が期待されるニアラインストレージ向け製品を主軸とした製品開発、量産体制の確立に経営資源を集中**

## 2. 中期経営方針 - 新規事業 -

# SUNCALL New Technology



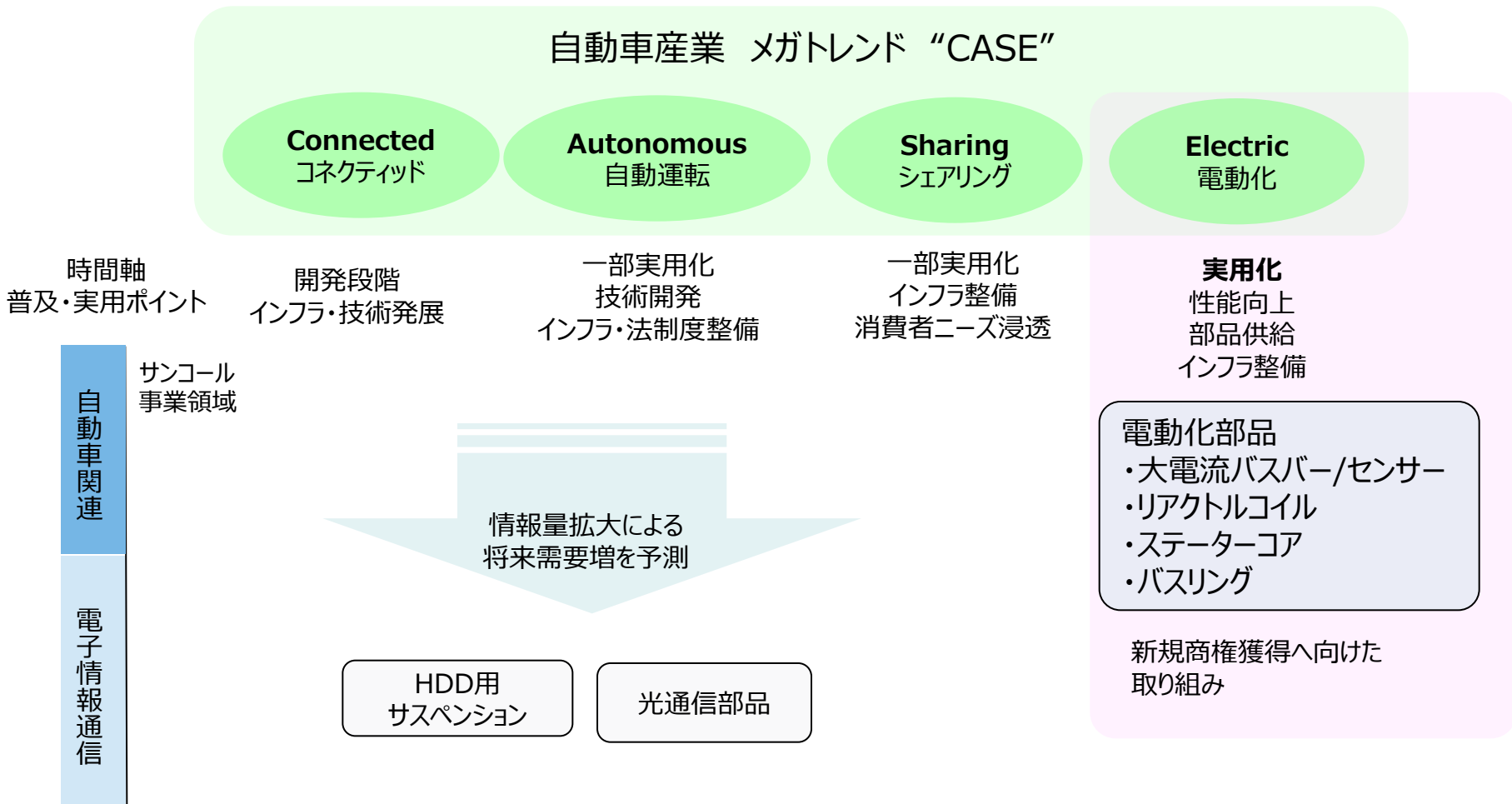
**既存事業**

材料関連・自動車関連・HDD用サスペンション  
プリンター関連・通信関連・測定器関連

# SUNCALL コア技術

# 2. 中期経営方針 - 新規事業 -

## 自動車関連開発製品



▶ 業界トレンド、実用化段階に合わせ、自動車電動化部品の新規商権獲得へ向けて活動

## 2. 中期経営方針 — 新規事業 —

### 自動車電動化部品 EV/HV/PHV/FCV分野への参入



シャント・オン・バスバー（大電流センサー）  
KOA社共同開発



バスリング



モーターコア・ローター  
コアASSY



バスバー



リアクター・リアクトルコイル



# 2. 中期経営方針 — 新規事業 —

## 成長分野への参入：大電流バスバー/センサー

自動車EV化による大電流用途に対応

【製品】 バスバー



シャントオンバスバー



回路付きシャントセンサー



KOA株式会社との共同開発

### 【用途】

- ・モーター、インバータ、バッテリー等のユニット内配線ワイヤーハーネスからの置換え 等

### 【製品特徴】

- ・フォーミング加工バスバー  
金型が不要なため、製作コストや材料ロスを大幅に削減

- ・車載・産業機器・エネルギー機器における電流検出  
バッテリーマネージメントシステム（BMS）  
インバータ高周波対応電流制御 等

- ・大電流対応
- ・電流測定の高精度化
- ・カスタム設計対応
- ・発熱ロス低減

【開発・事業化進捗】 ▼実行済 ◆実行中 ●目標

▼バスバー量産化

▼シャントオンバスバー量産化  
— 特殊車両、産業機械 —

◆回路付きシャントセンサー  
車載センサーの引合、試作開発

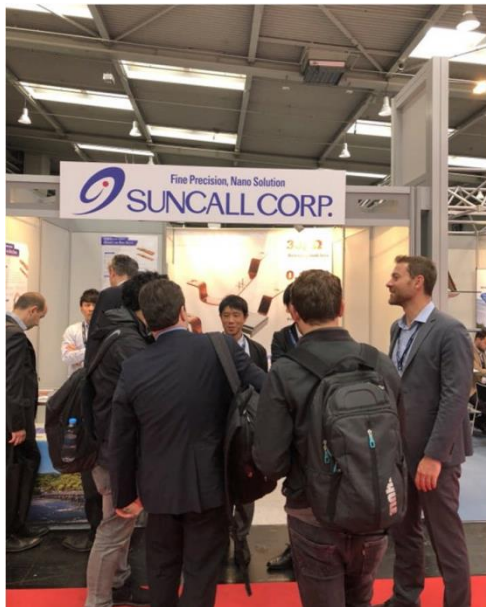
●回路付きシャントセンサー量産化

# 2. 中期経営方針 - 新規事業 -

## - “The Battery Show Europe 2018” に出展 - 2018年5月15日 ~ 5月17日 Hannover, Germany

Hannover, Germany

サンコールブース



製品展示



- 約90社とディスカッション
- 客先ニーズと製品訴求ポイントを把握
- 訪問顧客を継続フォロー

【展開計画】 ▼実行済 ◆実行中 ●目標

▼The Battery Show 出展

◆潜在顧客への継続フォロー、製品ニーズ・SPECの特定

●製品開発、欧州新規商権の具体化



# 2. 中期経営方針 - 新規事業 -

## 成長分野への参入：航空機先端技術開発プロジェクトへの参画



### 【取組内容】

IHI様による航空機エンジン電動化プログラムに 参画  
航空機エンジン・アクチュエーターに使用される小型・  
軽量化モーターの開発プロジェクト

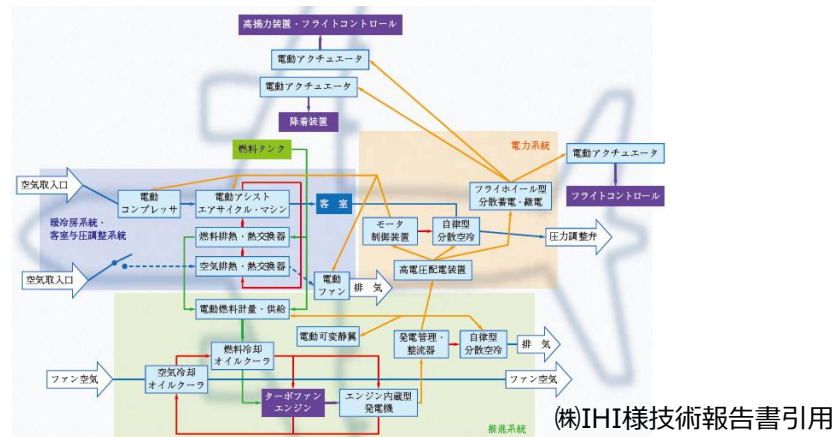
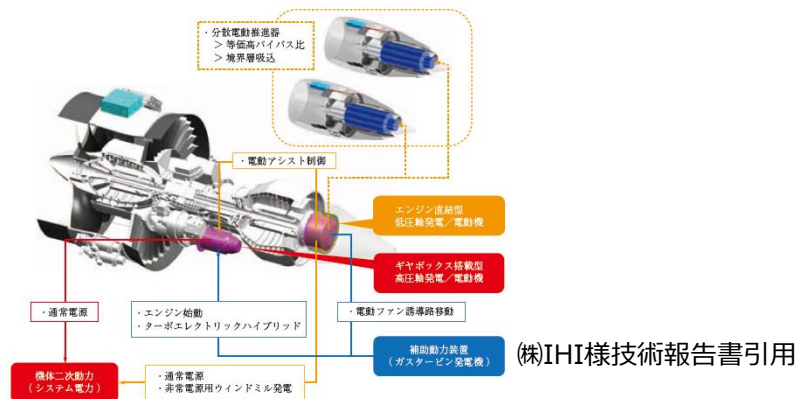
- 環境負荷・経済性のニーズから、従来型油圧式からモーター駆動へ電動化推進
- 当社電着塗装技術を応用し、導体に電着された状態で 300℃, 1000h以上の耐熱性を実証
- 他、電動部品へ技術採用の可能性あり

【開発・事業化進捗】 ▼実行済 ◆実行中 ●目標

▼IHI様プロジェクト参画

◆当社技術採用に向けて展開中

### 【電動推進へのシステム拡張の例】



(注)：□：将来の電動化により刷新・導入される機器  
・二次動力エネルギーの流れ

●航空機電動化部品への技術採用



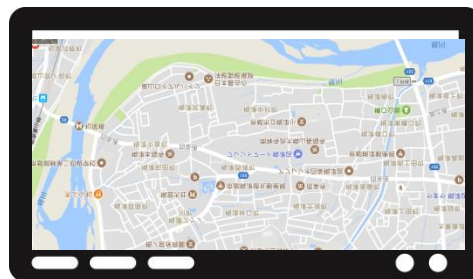
## 2. 中期経営方針 － 新規事業 －

### 環境・エネルギー分野への参入



炭素材  
炭素材量産装置

竹材からの製造過程で  
CO<sub>2</sub>排出量削減



タッチパネル塗料

竹炭利用炭素材  
量産化製品



固定砥粒ワイヤ  
ダイヤモンド・ワイヤ

太陽光発電用シリコン  
ウェハ切断に使用

## 2. 中期経営方針 — 新規事業 —

### 新規事業への参入：環境・エネルギー / 炭素材開発 竹炭

京都の会社が京都の竹を利用した京都ブランド。



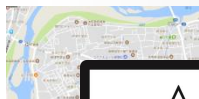
#### 【製品特徴】

- ・過熱水蒸気による生産方法 CO2排出を抑制
- ・ツヤのない漆黒を実現（塗料用途）
- ・脱臭、吸放湿

【開発・事業化進捗】 ▼実行済 ◆実行中 ●目標

#### ▼タッチパネル用塗料材料量産化

—家電、カーナビ用—



- ◆車載・他製品への展開、評価中  
—スマホ、車載インパネなど—



- キャパシタ材料など  
付加価値製品へ展開

## 2. 中期経営方針 － 新規事業 －

### 医療・介護分野への参入



装着型運動支援装置



リハビリロボット  
『オルソロボット』



その他運動支援装置

# 2. 中期経営方針 - 新規事業 -

## 新規事業への参入 : 医療・介護 / 装着型運動支援装置

### 【製品】

リハビリロボット  
『装着型運動支援装置』



リハビリロボット  
『オルソボット』



産業用運動支援装置



コンセプトデザイン完成

※当開発品は当社が参加する京都大学COI (Center Of Innovation) 拠点グループ2で共同開発を行っています。

### 【用途】

人工膝関節置換術後の歩行リハビリ補助  
シンプルな構造、装脱着が簡便

脳卒中後の歩行リハビリ補助

農作業収穫、長時間作業など  
労働支援

【開発・事業化進捗】 ▼実行済 ◆実行中 ●目標

▼『装着型運動支援装置』開発

▼製造販売許可取得

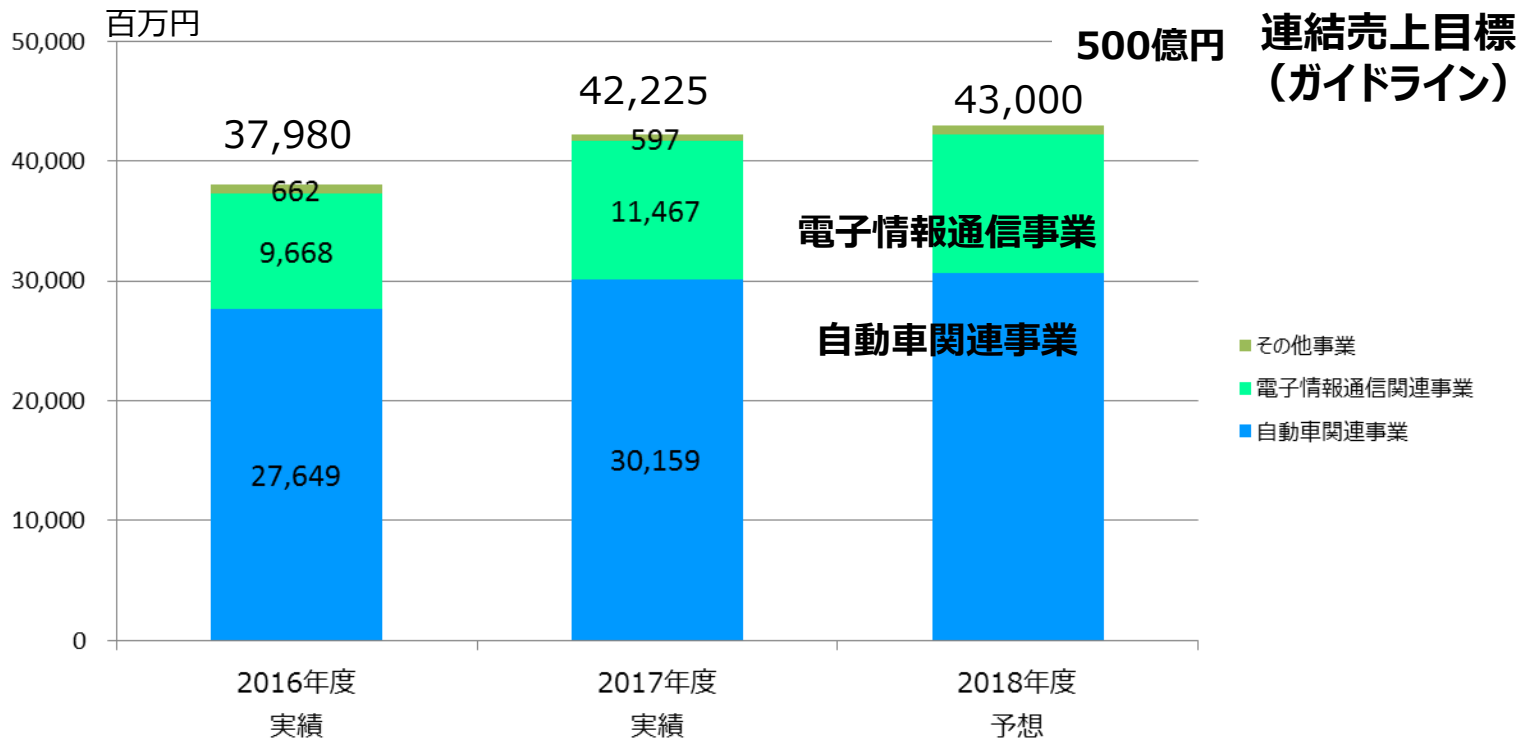
◆上市準備

▼『オルソボット』開発

-----> ◆評価データ収集

●各種運動支援装置開発  
事業化実現

# 2. 中期経営方針 — 定量計画 —



- 定量イメージ : 連結売上500億円 / 営業利益率 10% (将来目標)
- 配当金 (中期計画期間/2018年までの目標) :
  - 株主帰属当期純利益に対する配当性向
  - 25億円までの部分 25%
  - 25億円を超える部分 35%
  - 現行配当額1株18円の維持を下限目標とする

**Fine Precision, Nano Solution**

